

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392900029		
法人名	株式会社日本介護研究所		
事業所名	グループホーム長寿の郷 かりや		
所在地	愛知県刈谷市神明町4丁目723番地2		
自己評価作成日	令和3年3月12日	評価結果市町村受理日	令和3年5月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎日のレクや誕生日会、季節の行事に力を入れ取り組んでいる また体操は特に毎日行い、筋力低下の予防に努めている</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [kensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action\\_kouhyou\\_pref\\_se](https://kensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_pref_se)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>この一年新型コロナウイルス感染症の影響に寄り面会や外出の制限、地域住民との交流が自粛されホームで過ごす時間が増えてきているので、毎日のラジオ体操やYouTubeを利用して職員が体操を選んだり、午後のレクリエーションにボールや風船を使って楽しく利用者と職員が交流しながら、筋力低下の予防に努めている。また散歩の代わりにホームの廊下を歩くことも勤めている。日々の生活の中で利用者と職員と一緒に誕生日のケーキやおやつのおはぎを手作りしたり、レクリエーションを楽しんだり、一緒にゆったりと過ごす時間を大切にしている。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和3年3月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念には「一人一人のせいかつを大切に」「一人一人のできることを引き出す実践」という理念があるが、施設では本人のできることを理解し、スタッフと共に無理することなく行っている。特に調理・洗濯物干し・配茶等の手伝いなど行っている	職員其々が独自にホームの理念を理解し、利用者が日々過ごしやすいように手伝って実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この1年はコロナ禍であったため、自由に入ったりや面会は規制していたので行っていない。	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。散歩の際近隣住民と会えば挨拶を交わし認識されている。この一年はコロナ禍の為外部との交流が出来ていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	②と同様		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は春ごろより、外部の方に会議への招待はなかったが、施設内ではスタッフ・利用者と共に話し合いをしたり。議事録を作り、ご家族や行政、地域の方に配布している。	運営推進会議ではホームの活動や運営状況を報告しているが、今年度は新型コロナウイルス感染予防の為職員と利用者のみで会議を行い、構成メンバーに議事録を配布している。また施設内での様子を写真に収め、家族に配布している	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とは困難事例について何度も足を運び、話を聞いていただいた。	市の担当者とはメールや電話で連絡を取ったり、窓口に向く際にはホームの状況を説明し協力関係を築いている。今年度市主催の研修は全て中止か延期となっている。今年の初めにはなんとか1回のみ参加出来た	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはスタッフとのミーティングを行い、外部から遮断することなく天気の良い日は皆で近所を散歩したりしていた。もちろんコロナ対策として人通りの少ない時間で行っていた	安全の為玄関は施錠している。ミーティング時に何が身体拘束になるか話し合い、職員は身体拘束について理解している。日々の支援の中で何か気づきが有れば管理者は指導している。	

7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様に虐待についても学べる	身体拘束と虐待はセットで内部研修を行い、何が虐待になるのか目に見えない言葉などの声掛けの仕方なども気を付けるべき注意点も話あっている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよ	権利擁護については管理者が研修を受けて熟知しているが幸いにも当施設でそのような該当者はいませんでした。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはしっかり時間をとり、利用者や家族にわかりやすいように説明している。また解約時の説明もその時点で説明を行っている。	契約時には十分に気を使い、ゆっくりと契約書の内容を家族に示しながら行っている	
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議が開かれた際に、質疑応答時間を設け、家族等からの意見や要望に返答している。	利用者からは日々の支援の中で意見要望を聞きだし、家族からは訪問時や電話、メールで意見、要望を聞き、何かあれば管理者がまとめて職員に伝え対応している。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員との面談を設け、意見などを聴取し上層部にあげ、問題解決を行っている。	管理者と職員との面談はあるが、日常の中で何か有ればその都度相談している。職員からのレクや体操の提案等出来ることは直ぐ取り上げ運営に反映されている。職員同士仲がよく希望休日も取れ働きやすい環境となっている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者から上がってくる職員個々の評価を聞き取りをし、職場環境・条件の整備に努めてもらっている。	管理者が職員たちの細かい要望をすぐに解決できるように支援している。また管理者が判断しづらい要望はすぐに上司に相談し解決している	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々の力量を把握し、法人内の交流や、研修の機会の場を与えている。	研修もいくつかあったがコロナの影響で中止になることもあった	

14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者はグループホーム協会の会員でもあり、同業者と接する機会も多く、そこで得た情報を職員に共有している。</p>	<p>代表者からの情報を管理者が受け取り、閉鎖するグループホームからの入居につなげたこともあった。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>新しい利用者は入居する前に管理者が面会に赴き、本人の希望や不安を聞き出し信頼確保につなげている</p>	<p>面談は必ず行い、入居者様の情報を収集している</p>	
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>上記と同様、見学時から入居P時までの間に幾度となく連絡を取り合い、関係づくりに努めている</p>	<p>家族からの不安や質問にはすぐに対応できている</p>	
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>見学の段階でアセスメントをしっかりと、本人からの要望と家族の要望が大きく違わないように聴取し、またその差を埋めるために入居後からも本人・家族との聞き取りを行っている。</p>	<p>アセスメントシートを使用し、家族からの情報をもとに作成している。また足りない分に関しては入居後の補足として記入している</p>	
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>やれることを見つけ、見守りしながら生活を一緒にするというスタイルを築いている。</p>	<p>一人の入居者だけに捉われず、偏ることなく一人一人を見守っている</p>	
19	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とのやり取りはメールで行い、迅速に行うことで家族の支援も取り入れている。</p>	<p>電話ではすぐに連絡がつかない場合でも、メールだと気軽に連絡が取れ、文字として記録されるので活用している</p>	
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援			

	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	一昨年は友人などが訪ねてくることも あったが コロナ禍の中では途切れている。	コロナ禍の為制限され、家族とは窓ガラス越しで 面会している。また暖かい日は近隣の散歩に出 掛けている。	
--	---	--	---	--

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆が集まりやすいようにソファを配置し、居心地の良い空間を作っているのが自然とそこに集まるようになってい	テーブルの配置を工夫し、皆が集まりやすい配置をとっている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同会社内の事業所間であれば、相談や支援に努めている。	管理者がとくに他事業所との連絡を取り合うことが多く、相談や協力を求めたりしている	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接伺い、発せられた言葉の意味に近い言葉に変え、意向としている。	午後のおやつ時間等ゆったりと過ごす時間の中で希望や意向の把握に努め、自己表現が難しい場合は表情や反応を見ながら、時には択一できる言葉がけで汲み取っている。得た情報は個人記録に残し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回にとったアセスメントを基盤に普段のさりげない言葉を記録し、サービスにつなげている。	今までの暮らしの把握により、その人にあったスケジュールや些細な習慣を見つけ、生活の中に取り込んでいる	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の見守りの中で生活しているため、日々の過ごし方や本人の能力を見極め、生活に取り組んでいる。	上記と同様	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が常に職員とのコミュニケーションをとりながら、その人に合った支援を実行し、万が一うまくいかなかった場合は皆で検討し、より良い介護計画を作成に努めている。	計画作成は担当制を取らず、ユニットごとに全職員で利用者支援している。特に状態変化が見られる場合は会議で現状に即した介護計画となるよう対応を話し合い、都度変更している。職員は連絡ノートで計画変更を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは介護記録に細かく記載し、足りない部分は申し送り事項に記入して、共有し、介護計画の見直しに反映している。	介護記録は一番重要なものでキチンと記録ができていないか確認し、またその他の伝達については申し送りノートの活用としている	

28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調や心身の状態を把握し、計画通りにいかない場合は臨機応変できるように取り組んでいる。	なかなか同じ実行ができない場合でもほかで代用すべきことはないか皆で話し合い、実行している	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	このコロナ禍の状況では地域資源を活用することが出来ず、医療のみは優先的に取り組んでいた	コロナ禍が終了し、安心して外出できるまでは身近な資源、例えば主治医の医院に受診するなどしていた	
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療はもとより、状態に合わせての緊急時の受診は積極的にご家族様に依頼し、より細かい情報をご家族様が困らないように作成した。	契約時にホームの24時間対応の協力医に変更してもらい、月1回の往診を受けている。受診は基本家族対応で詳細情報を提供し支援している。日常何かあれば看護師の職員と相談の上対応している。歯科の訪問や口腔ケア指導は受けておらず、食後の歯磨きやケアは本人、難しい場合は職員が補助している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護職員の訪問と、同事業所内の看護職員が管理職と連携し、看護を受けられるように支援している。	法人内の看護師に依頼し、月1~2回の訪問を依頼している。	
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者の情報を前もって、病院に連絡し細かい情報を聞き取っている。	入院中であっても病院への聞き取りは行っている	
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に入った方は同社内間のほかの事業所にご案内するとともに、ご家族とも十分な話し合いを設け、本人の最期となる場所の提供を行っている。もちろんいかれる先の事業所にも十分な情報提供を行っている。	入所時に重度化した場合のホームの対応方針を説明し理解を得ている。状態に変化があった場合は医師や家族、本人、ホーム等と法人内他施設への転居も含め話し合いを重ね方針を共有し都度対応している。職員への終末期対応への研修は今のところ実施していない。	
34	○急変や事故発生時の備え	急変や事故発生時には管理者への即		

	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	座の連絡を行い、適切に対応できるように指示を行い、救急搬送の場合も職員が迷わないように事前に打ち合わせを行っている。	急変時の対応で職員が判断しかねる場合は必ず、管理者に連絡を入れるように指示ができています	
--	--	--	--	--



35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	万が一の対策を災害訓練などを行い、反省点を踏まえながら改善方法を検討している。また緊急時の連絡網も作成している。	災害時に関する訓練は年2回実施している。訓練の後お庭でおやつを食べ、普段とは違うおやつタイムを楽しんだりもしている。職員は避難経路に関して個々にイメージングはしているがホーム内で話し合いや情報の共有はされていない。水・食量等災害備蓄は全く準備されていない。	災害対策として最低3日分の水や食料、衛生用品等の備蓄を早急に検討されたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の訴えを聞きながら、尊厳を損なわないよう、言葉を選んで対応している。	利用者を「～さん」付けで呼び、職員それぞれが利用者の人格や尊厳を尊重し、入室時の声かけ等さりげなく対応するよう心がけ日々支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も無理強いないように、本人の希望を叶えられるよう、自己決定できるように支援している。	入居者様たちは思い思いに生活し、眠くなったら寝室に自ら行き、フロアに来て過ごしたいのならフロアで過ごすなど自分の意思で過ごされている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅での生活習慣を大事にしながら、その人のペースに合わせて支援している。	職員が掃除していると自ら箒を持ち、掃除を手伝ってくださったり、自主トレの歩行訓練などは強制しなくとも自分で決めて行っている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望をできるだけ叶えられるよう、またほめることで本人に自信を持たせるように支援している。	髪を髪飾りで止めたり、服を選んだりはお自身で決めていただいている	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事や誕生会などその人ができることを見極めながら、見守って最後までやり遂げるように支援している。	食材は配達で届き、レシピに沿って調理している。時にはメニューを変更することもあり、日曜日の朝食はパン食となっている。コロナ感染症で外食は難しくなり、誕生日会のケーキやおはぎを利用者と手づくりして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量を記録し、本人に合わせて工夫をしながら、栄養を十分に取れるようにしている。	本人が食べれる量は職員が把握し、たくさん食べたい人には大盛にしたり、そうでない人は本人の食べれる量にして提供している	

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必須で、できない人にはやりやすいように支援している。	口腔ケアは毎食後にセッティングし、本人にやっていただいている。また自分ではできない人には職員がついてそばで指導しながら行っている	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ本人の排泄に合わせ、トイレにて排泄できるように、また排泄の失敗を繰り返す人にはパターンを掴み、声かけや誘導により支援している	自立の方もあるが、排泄チェック表で利用者個々のパターンを把握し、出来る限りトイレで排泄出来るよう声がけや誘導で支援している。夜間は個々のペースに任せ、居室でポータブルトイレを使用する方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態や回数も常に把握し、排便コントロールできるように水分の摂取やまた便秘薬の処方主治医に依頼し、便秘にならないようにしている。	排便チェックを毎日行い、排便が3日以上ない方には下剤のコントロールを行うために主治医に相談し、下剤の処方をお願いしている	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については円滑に回せるように、とりあえず曜日決めをしているが、決して無理強いはしていない。本人の希望を聞いてからその日に入るか次の日に回すなど、本人の意思で決めている。	基本は週2回入浴とし、体調や気分に合わせて都度変更することもある。拒否の方には、無理強いせず、タイミングや職員の声がけの工夫で対応している。入浴剤は使用せず、季節感が味わえるゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個室になっているため、本人のタイミングで睡眠を促している。	お昼寝は毎日定期時に誘導しているが起きていたい人には無理強いせず、職員のお手伝いをしている	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が皆、把握しており、また本人から要望があった場合には主治医に相談し、処方していただいている。その他本人が決められない場合にこちらからのアドバイスにて主治医に相談の上、処方依頼している。	薬の管理は職員が行っており、飲み忘れのないようにしている。また体調に合わせて主治医に相談し、処方していただいている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力を職員が皆、共有しており、お手伝いをしている。強要はせず、その日の本人の気持ちを優先している。	洗濯もの干しや畳みなどのお手伝いは決して強制せず、やりたい人にやっていただいている	

49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はこの1年コロナ禍のためしていない。 しかし、お散歩は天気の良い日に近所のみにして希望者があればしている。	春には近くの公園まで歩いてお花見に出かけたが、それ以後はコロナ感染症感染防止のため外出は控えている。天候や利用者の体調を考慮しながら出来る限り近隣を散歩しており、筋力低下の観点からホーム内廊下の歩行も心がけている。訪問時は庭で日向ぼっこする利用者の姿が見受けられ、笑顔で挨拶してくれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は紛失などトラブルにならないためにしていない。	お金の管理は本人に行っていたが、一人ぐらしか現金は持っていない。その方は施設前の自動販売機にてジュースを購入するために職員が代わりに購入している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望は現在無く、手紙も書けない人が多いため支援していない。しかし、自分の名前を忘れないために時折、書く支援をしている。	文章でなくとも今後は絵手紙などの支援もしていきたいと考えている	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう工夫をしている	ゆうひユニットにはソファを配置し皆が集まる空間を作っており、おしゃべりの場となっている。	共用空間のスペースに合わせ、日常の様子が分かる写真や職員のアイデアで作成の季節感ある作品が飾られている。庭や玄関周辺にもほっと心とむ数々オブジェが配置されており、アットホームさが感じられる。利用者が掃除を手伝うこともあり、窓を開けて換気にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自ら自分の座る場所を決め、お互いに声を掛けあい、仲間と過ごしている。	自然と自分の座る場所を決めており、たまにその場所が他の人が座っていても、みんなで声掛け気を使いながらほかの座る場所を指示してトラブルは一切ない	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の環境整備には安全な動線を確保するために職員が本人と一緒にしている。またご家族が写真などを持ち込んだり、昔本人が作成したものを飾ったりしている。	居室にはベッド、エアコン、カーテンが備え付けられ、馴染みのタンス類やテレビ、写真、ホームで一緒に作成した季節の作品等を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。1日1回朝の換気や職員の掃除で清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設は元々あった自宅を改装し、動きやすい家庭的なつくりとなっている。	いつも環境整備には気を使い、入居者の動線に障害がないようにしている。またたまに模様替えなどを行い、気分転換につなげている	